

薬剤から放出する放射線でがん組織を直接攻撃することで、治療効果が期待される
抗がん剤「FF-21101」
進行性固形がんを対象とする国内臨床第 I 相試験を開始

2020年4月24日

富士フイルム富山化学株式会社

富士フイルム富山化学株式会社(本社:東京都中央区/社長:岡田 淳二、以下 富士フイルム富山化学)は、このたび、抗がん剤「FF-21101」の臨床第 I 相試験を国内で開始しましたのでお知らせします。本試験は、再発または遠隔転移を有する、難治性の進行性固形がん患者を対象としたものです。

「FF-21101」は、放射性同位元素(RI)のイットリウム(⁹⁰Y) *1 を結合させた抗体(Armed 抗体*2)を用いた抗がん剤で、富士フイルム株式会社がグループの技術を結集させて創出したものです。「FF-21101」は、抗原抗体反応*3 により抗原である P カドヘリン*4 を発現したがん組織に選択的に集積し、イットリウム(⁹⁰Y)が放出する放射線でがん組織を直接攻撃することで、治療効果が期待されています。

現在、米国では、富士フイルムが、進行性固形がん患者を対象に「FF-21101」の臨床試験を実施しています。

今回、富士フイルム富山化学は、国内で、標準治療後に再発又は遠隔転移をきたした固形がん患者を対象とした「FF-21101」の臨床第 I 相試験を開始しました。本試験では、卵巣がんや胆道がん、頭頸部がんといった進行性固形がんの患者に対して、「FF-21101」の安全性や忍容性、薬物動態、有効性を確認していきます。

富士フイルム富山化学は、「FF-21101」以外にも、神経内分泌腫瘍*5 を対象とした「F-1515」(ルテチウム(¹⁷⁷Lu)ドータオクトレオテート)や難治性褐色細胞腫*6 を対象とした「F-1614」(3-ヨードベンジルグアニジン(¹³¹I))など、放射性同位元素を用いた薬剤(放射性医薬品)の開発を積極的に進めています。今後も、高付加価値な医薬品を創出することで、医療のさらなる発展に貢献していきます。

*1 治療に適した放射線(ベータ線)を放出する放射性同位元素。物理学的半減期は 64 時間。

*2 抗体に RI や毒素を化学的に結合させたもので、がん組織への攻撃力を高めることが期待できる。

*3 体内に侵入した異物や、がんを発現する特有のタンパク質などの抗原と、免疫細胞が作るタンパク質の抗体が結合する現象。

*4 多くの固形がんの細胞表面に発現し、がんの増殖や転移などに関与することが知られているタンパク質。

*5 全身に広く分布する神経内分泌細胞に由来する腫瘍。全身のさまざまな臓器に発生するが、特に膵(すい)臓、消化管および肺に発生することが多い。

*6 主に副腎髓質(腎臓の上方に位置する副腎の一部でホルモン分泌を行う組織)から発生する神経内分泌腫瘍。

<富士フイルム富山化学株式会社>

富士フイルム富山化学株式会社は、放射性医薬品および低分子医薬品の研究・開発・製造・販売を行っています。富士フイルムと連携し、アンメットメディカルニーズが高い「がん」「中枢神経疾患」「感染症」領域において、新規の放射性診断薬・治療薬、独自の作用メカニズムを持つ治療薬、必要な量の薬物を必要な部位に必要なタイミングに送達するドラッグ・デリバリー・システム技術を応用した新薬を開発するとともに、富士フイルムの体外診断機器・試薬なども活用し「診断」から「治療」のトータルソリューション展開を拡大させていきます。また、薬剤師の調剤監査業務の支援システム、厳密な温度管理が可能で血液製剤や再生医療に用いる細胞・組織の運搬に適した定温搬送装置の提供による医薬 IoT ソリューションにも取り組むなど、事業領域の拡充も進めています。

今後、富士フイルム富山化学は、高品質・高付加価値な新薬、医療現場をサポートする製品の開発・提供などを通じて、社会課題を解決し、医療や生活の質のさらなる向上に貢献していきます。

富士フイルム富山化学の詳細情報は、<http://fftc.fujifilm.co.jp/>をご覧ください。

本件に関するお問い合わせは下記にお願い致します
富士フイルム富山化学株式会社
【報道関係】 総務部 TEL 03-5579-5754
【その他】 プロジェクト統括部 TEL 03-6228-3129
インターネットホームページアドレス
<http://fftc.fujifilm.co.jp/>